

Title	R&Dとしてのメセナ活動 - 企業経営におけるメセナ活動の意義と課題 -
Sub Title	
Author	中川嘉久子(Nakagawa, Kakuko) 和田充夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第862号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0862

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	中川 嘉久子	主査	和田 充夫
		副査	嶋口 充輝
			森川 英正
			田中 滋
所属	和田 充夫 研究室		

R & D と し て の メ セ ナ 活 動

－ 企業経営におけるメセナ活動の意義と課題－

これまでの企業経営のパラダイムが疑問視され始めている。利益至上主義や効率至上主義といった価値観に変わり、「ゆとり、豊かさ、公正」といった経営ビジョンが重視され、「ビッグ・カンパニーからグッド・カンパニー」への変革の必要性が叫ばれている。

そして良き企業市民、フィランソロピー、企業メセナといった企業の社会貢献に関する概念が、21世紀へむけての企業成長戦略には欠かせないものとしてクローズアップされている。

本研究では、経済大国といわれながらも、個人がその豊かさを実感できない原因はどこにあるのかを探り、真に豊かな社会の尺度となる新たな豊かさの指標を提示した。また、これまでの企業の社会的責任理論を概観することによって、21世紀の社会発展に求められる企業の役割を考察している。

そして具体的なメセナ活動の推進のために、日、米、仏の企業メセナ事情を考察し、また各国の事例を考察することにより、文化国家構築へむけての企業メセナの意義と課題を明らかにしている。

事例としては各国とも、中小企業に重点をおいたが、大がかりなメセナ活動を行っている例として、フランスではカルティエ財団を、アメリカでは5%クラブの提唱企業であるデイトン・ハドソン社、また支援される側として文化の殿堂といわれるリンカーセンターなどもとりあげている。これら各国のメセナ事例を考察し、それぞれの国のモデルを抽出することによって、日本型メセナモデルを構築し、企業によるメセナ活動の一層の活発推進のための提言を行っている。